



☆☆今月のテーマ☆☆

- ・ 戸外遊びから草花や昆虫と触れ合い、季節を感じる。
- ・ 「母の日」を通して、お母さんに感謝の気持ちを持つ。



～今月の園内学習～

- ・ 足し算…5の段
- ・ 掛け算…の段
- ・ 数字カード…1～20の数字
- ・ 食べ物カード…今月の旬な食べ物
- ・ 漢字カード…小学校1学年で習う漢字30
- ・ 魚への漢字…「あじ」「いわし」
- ・ 木への漢字…「かや」「たぶのき」
- ・ 歴史カード…「天草四郎」ほか
- ・ ひらがなカード…「た行」
- ・ 国旗カード…イエメンほか
- ・ 地理カード…青森県ほか東北地方
- ・ 声に出して読みたい日本語・論語
- ・ 英会話…動物、曜日、季節の種類
- ・ 絵画カード…「晩鐘」他

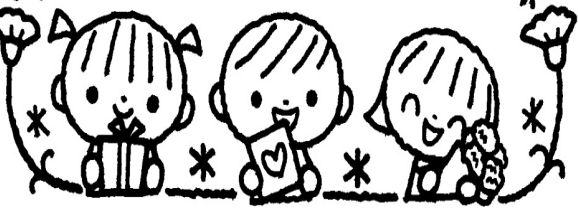


～保育のポイント～

今回はソニー創業者で元幼児開発協会理事長の井深大さんの「幼稚園では、遅すぎる」の中から“どの子も0歳からの育て方ひとつで能力を伸ばしていける”から抜粋です。バイオリンの早期才能教室で世界中の注目を集めている鈴木鎮一先生の言葉「どの子も育つ、育て方ひとつ」は、乳幼児期の育て方次第では、かなりの程度まで能力を伸ばすことが可能ということを示しています。所謂、「鈴木メソッド」と言われる独特の幼児教育を数十年前から続けてこれら当初は世間の常識通り、小・中学生以上を対象にしていたそうです。すると、よく伸びる子と伸びない子の差がどうしても歴然としたそうです。そこで、先生はもっと早くやったらどうか、というわけで対象年齢をどんどん下げていった結果、その差が縮小していったそうです。これはたまたま鈴木先生がバイオリニストのケースですが、これはどんな分野にも適用できるというのが幼児教育の定石となっています。先生の「能力の法則」に「能力は、生命が繰り返しの刺激に対して、善も悪も美も醜も区別なく、その生命体に能力として身につけていくもの」で脳が段々と出来上がる乳幼児期が一番吸収がいいことも脳科学的に立証されてきています。ですから、大人の「これはまだ早い」という固定観念は捨て、いろんな刺激（音、色、感触、物、体験機会など）を与え、興味あることを見つけ、特化する環境を提供し続けることがお子さんの可能性を伸ばすことになるのではないのでしょうか？

～行事予定～

- ・ 書道教室…11日・25日
- ・ お誕生日会…31日
- ・ 英語教室…23日
- ・ 避難訓練…17日
- ・ 身体測定…19日
- ・ リトミック…8日(中・長) 30日(少)
- ・ 体操教室…24日(中・長)/ 26日(少)



さくら組だより



新たなお友だちが分園や他の保育園から加わり、賑やかな新年度がスタートしました。いくら集団生活をしてきたとはいえ、全く違う環境には戸惑いが隠せず、不安から涙顔で過ごすことが暫し続いていました。ただ、次第に園での生活リズムが刻まれてくると落ち着き、外遊びの合図には一早く身支度をして季節的にも気持ちのいい外気浴で気分をリフレッシュさせていました。室内では男の子は町並みシートの道路に沿って車を自由自在に走らせ、女の子はままごとセットでお買物やお店屋ごっこで盛り上がりを見せています。お互いの顔と名前が頭に入り、声を掛け合う姿が見られますが、事おもちゃとなると「お口」よりも「手」が先に出がち…また、自分の思い通りにならないと「物」に当たる瞬間湯沸かし器的行動も気になる場所となっています。他には、おもちゃで遊ぶなどの集団活動の中で欠かせないのが「お約束」や「ルール」なのですが、「使う時だけ」は積極的、「お片付けの時」は消極的ないしは不参加型に徹するようなパターンが見受けられます。みんなが気持ちよく使い、楽しむためには「貸し借り」や「使ったものは元に戻す」といったことをお互いのコミュニケーションを図りながら進めていけるように今後も取組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

ひまわり組だより



ほんの一年前は園で一番下の甘えん坊さんだったのが、ひまわり組へと1つ上に進級したひまわり組。こどもたちなりにそれが理解できているようで進級式では何だか誇らしげな表情が印象的でした。これからは「さくら組」のみんなにお手本となる頑張り姿を見せていけることでしょうか、よく見守っていきたいと思います。就学期に向けた準備も生活リズムに合わせた気持ちや行動の切り替え、「衣（着脱や片付け）」・「食（嗜好品以外の挑戦や食べ切る習慣）」・「遊（遊び又はお話を聞く）」の面で発揮できるように一人ひとりが課題に取組み克服していってほしいと思います。また、（おしゃべり声やお口へ運ぶ量など）いろんな場面での「さじ加減」も学んでいく、いい機会の年度にしたいと思っています。最近、ルール性のある遊び（例えば、フルーツバスケットや椅子取りゲーム）にも挑戦中で上手くいく時やそうでなかった時の喜怒哀楽の感覚を味わうことで自制（または自律）ある行動にいい形で繋がって欲しいと思っています。これから暑さが増し紫外線が強くなってきますので脱水予防、紫外線や虫よけ対策をしながら元気に楽しく過ごしていきたいと思っております。

ゆり組だより



新年度恒例の進級式で園で最年長の証とこれからみんなをリードして欲しいという期待と願いを含めたキラキラメダルを一人ひとりに贈呈し、みんなはその意識を新たにして今期をスタートしました。そして、当園では春の伝統的な年長児の儀式として造幣局の「花のまわりみち」で種々の(八重の)桜鑑賞に出掛けることとなっています。当日は折角、遠出することから佐伯図書館の社会見学も兼ねて行きました。局内は公開初日とあってかなりの人出でしたが、行き交う来場者にもきちんと挨拶をし、普段見ることのできない珍しい品種の桜を沢山見れて大満足のひとときとなりました。他にもある特典が鍵盤ハーモニカ、絵の具活動に習字教室。まず先陣を切って習字の先生に手取り足取り(?)の指導してもらい、「字」の「はね」、「とめ」や「はらい」があることを学び、これから 毎月のレッスンで習得していくこととなります。また、他の2点についてもこれから追々、取り組んでいきますのでよろしくお願いいたします。

給食だより

～すごい「噛む」パワーに注目！～



直立二足歩行をはじめた人間の祖先の脳は今から百万年ほど前に、四百～五百グラムから千グラムにまで進化した、その大きな要因は食べ物をよく咀嚼するようになったから、と言われています。今回は(噛む)咀嚼に注目したいと思います。脳に入る運動情報は「顎」、「手」と「足」の3種類で、その情報量は足と手がそれぞれ25%に対し、顎は50%。よく噛むことは脳を活性化するとされる所以ですね。つまり、(噛む)咀嚼は、一般的に摂食や消化機能に加えて認知機能の向上など脳の働きにも有益だということが分かってきてからなのです。まず摂食や消化機能には咀嚼で分泌される唾液により食べ物を噛みやすく、味覚を敏感にし、口を滑らかにして乾燥を防ぐ効果があります。それだけでなく、唾液の大半が免疫物質で細菌に対しプロテクトしたり、発ガン物質を減らす物質も含まれているのも重要な点と言えます。また、認知機能では、唾液は体内に吸い込まれてホルモンの働きのように皮膚、歯や口腔粘膜などの細胞を増やすことで歯を強くすることなどに寄与しています。また、食後90分後に記憶に関わる脳の部分(海馬)を刺激するホルモンが分泌され、数々の記憶を呼び覚ましてくれる、ということも分かってきており咀嚼は脳を活性化されるとされる所以となっています。「噛む」ことは、単に食材を味わうだけでなく有益な刺激が身体の各部に行き渡り、“元気の源”となっていますので今一度、「噛み、噛む」の機能を再考し、実践することで健康に過ごしていくパワーを獲得するようにしましょう！